

2.4.2 日高南部森林管理署

表-2.4.2 の 20 調査地について記載した。

表-2.4.2 日高南部森林管理署の調査地一覧

No	エリア プロット	SPUE 2007	SPUE 累積	地形	林相	林床植生	毎木 区数	稚樹 区数	樹皮剥ぎ		食痕率		
									小径 木	大径 木	下枝	稚樹	ササ
21	P01	5.7	4.1	斜面下部	広葉樹林	ジュウモンジシダ	1	2	5%	0%	0%	100%	0%
22	P02	3.9	3.7	尾根	針広混交林	スゲ類、ミヤコザサ	1	2	24%	0%	61%	56%	13%
23	H1 浦 河 P03	4.7	2.7	尾根	広葉樹林	ミヤコザサ	2	2	0%	0%	41%	33%	0%
24	P04	4.7	2.7	斜面下部	広葉樹林	ミヤコザサ	1	2	13%	17%	5%		30%
25	P05	3.1	1.5	斜面中部	広葉樹林	クマイザサ	1	2	21%	21%	43%	100%	17%
26	P06	3.1	1.5	斜面中部	針広混交林	ミヤコザサ	1	2	3%	3%	26%		5%
27	P07	4.9	5.3	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	1	2	4%	14%	40%		0%
28	H2 静 内 P08	6.6	6.1	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	1	2	14%	8%	4%	100%	13%
29	P09	8.8	5.7	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	1	2	6%	0%	0%	0%	0%
30	P10	8.8	5.7	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ	1	2	41%	11%	4%	16%	50%
31	P11	4.8	3.7	斜面中部	針広混交林	ミヤコザサ	1	2	0%	0%	0%		0%
32	P12	6.7	4.4	斜面中部	広葉樹林	ミヤコザサ	1	2	0%	0%	13%	13%	15%
33	H3 新 冠 P13	6.7	4.4	斜面中部	広葉樹林	ミヤコザサ	1	2	1%	0%	1%	0%	17%
34	P14	5.3	4.3	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	クマイザサ	1	2	19%	0%	16%	46%	10%
35	P15	3.2	3.6	斜面中部	広葉樹林(ミズナラ)	ミヤコザサ、スズタケ	1	2	4%	0%	2%	0%	0%
36	P16	3.6	2.9	尾根	広葉樹林	オシダ、ミヤコザサ	1	2	0%	3%	6%	17%	0%
37	P17	4.5	2.9	斜面中部	針広混交林	スゲ類、ミヤコザサ	1	2	3%	0%	45%	63%	40%
38	H4 門 別 P18	4.5	3.3	尾根	広葉樹林	ミヤコザサ	1	2	3%	0%	38%	48%	35%
39	P19	5.5	4.6	斜面中部	広葉樹林	ミヤコザサ	1	2	6%	0%	7%	0%	20%
40	P20	5.5	4.6	斜面下部	針広混交林	ミヤコザサ	1	2	4%	0%	0%	19%	20%

日高 P01 の結果概要

地区名：春別川 1

3007 林班い 2 小班

9 月 2 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面下部	北	1	2	2007 年 5.7	累積 4.1	シカ道・骨
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)		
	57 /200 m ²	60.4 m ² /ha	25 /200 m ² 食痕:0/25 0%		9/200 m ²	0/56 0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	2 /200 m ²	0/2 0%		35	0%・12.0・0%	0.21・0.21(37.8)・0.01		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
シウリザクラ	10	2,152		
カツラ	7	1,872	1	
シナノキ	5	1,682	2	
ヤチダモ	2	1,606		
ミツデカエデ	7	1,448	3	
全体	57	12,071	25	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ミツデカエデ	2		

全体 2

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ジュウモンジシダ	11	0.098	22.5	40.7	
イッポンワラビ	13	0.066	18.3	28.4	
オシダ	5	0.031	5.6	27.6	
ハンゴンソウ	5	0.005	0.9	52.8	
スゲsp.(A)	5	0.004	5.0	7.8	
全体		0.213	54.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P01 は、浦河町春別川上流の林道沿いに位置する広葉樹林である。段丘斜面下の平坦地で、シウリザクラやカツラなどの湿性の広葉樹が多く見られる。林内にはシカ道が見られる。下枝がある立木はミツデカエデなど 25 本/200m² とやや少なく、食痕は見られない。樹皮剥ぎについても見られない。

稚樹はミツデカエデの 2 本のみと密度が低く、食痕はない。林床は湿潤な環境で、ササを欠いており、ジュウモンジシダやイッポンワラビなどのシダ植物が目立つ。可食種の現存量は 0.01 未満とほとんど見られず、忌避種が優占する。枝の被食が確認されていないものの、林床に忌避種が優占すること、ササを欠いた湿潤な林床のため実生更新が期待される立地条件であるものの稚樹がほとんど見られないことから、林床ではシカによる影響を強く受けていることが推測される。

日高 P02 の結果概要 地区名：春別川 2 3059 林班い 2 小班 9月2日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	尾根	南東	1	2	2007年 3.9	累積 3.7	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	59 /200 m ²	69.1 m ² /ha	24 /200 m ² 食痕:2/24 8%		19/200 m ²	1/41 2%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	2 /200 m ²	0/2 0%					

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の ()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	18	7,644		
ミズナラ	2	1,944		
サワシバ	11	1,103	7	
オオバボダイジュ	2	936		
イチイ	1	542		
全体	59	13,824	24	1

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
トドマツ	3	1	
オオバボダイジュ	1		
サワシバ	1		
全体	5	1	

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
スゲsp.(A)	15	0.021	10.9	16.9	
スゲsp.(B)	6	0.014	7.5	19.8	
オシダ	5	0.013	2.6	34.6	
シノブカグマ	5	0.009	2.5	22.8	
ミヤコザサ	7	0.006	2.6	19.0	
全体		0.073	31.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P02 は、浦河町春別川上流の林道沿いに位置する針広混交林である。尾根沿いの急斜面で、針葉樹はトドマツで、広葉樹はミズナラやサワシバが多く見られる。林内には尾根沿いに沿ってシカ道が見られる。下枝がある立木はサワシバを中心に 24 本/200m² とやや少なく、その 8%に食痕が見られる。

稚樹は広葉樹の 2 本のみと密度が低く、食痕は確認されていない。急斜面で土壌が薄いために、林床はササが少なく、スゲ類が目立つ。可食種の現存量は 0.01 未満とほとんど見られず、忌避種が優占する。枝の被食が少ないものの、林床に忌避種が優占すること、潜在的にササが少なく実生更新が期待される立地条件であるもののほとんど稚樹が見られないことから、林床ではシカによる影響を強く受けていることが推測される。

日高 P03 の結果概要 地区名：元浦川 1 3072 林班い 2 小班 9 月 3 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	尾根	北西	2	2	2007 年 4.7	累積 2.3	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	29 /200 m ²	23.3 m ² /ha	15 /200 m ² 食痕:0/30 0%		6/200 m ²	0/58 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m ²	1/1 100%		26	29%・35.4・63%	0.20・0.09(711.4)・0.00	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
オオバボダイジュ	5	1,987		
イタヤカエデ	15	1,801	10	
ハルニレ	3	1,619	1	
ケヤマハンノキ	1	637	1	
サワシバ	13	579	10	
全体	58	9,339	30	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
サワシバ	1		1

全体	1		1
----	---	--	---

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	16	0.110	28.8	35.4	○
ジュウモンジシダ	11	0.036	8.3	41.3	
オシダ	7	0.029	6.3	42.4	
スゲsp.(B)	17	0.023	12.9	17.2	
フッキソウ	5	0.004	1.3	18.6	
全体		0.205	51.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P03 は、元浦川上流の林道沿いに位置する広葉樹林である。尾根沿いの緩斜面で、オオバボダイジュやイタヤカエデが優占する。林内には尾根沿いに沿ってシカ道や足跡が見られる。下枝がある立木はイタヤカエデやサワシバを中心に 15 本/200m² と少なく、樹皮剥ぎも含めて食痕は見られない。

稚樹はサワシバの 1 本のみと密度が低い。林床はミヤコザサが 30%弱を占めるほか、シダやスゲ類が目立つ。可食種の現存量は 0.01 未満とほとんど見られず、ササを除くと忌避種が多い。枝の被食が確認されていないものの、忌避種が多くササの食痕率が高いことや、ササが密生しない林床で、稚樹の更新が期待される立地条件にあるもののほとんど稚樹が見られないことから、林床ではシカによる影響を強く受けていることが推測される。

日高 P04 の結果概要 地区名: 元浦川2 3070 林班い1 小班 9月3日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面下部	北西	1	2	2007年 4.7	累積 2.3	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	32 /200 m ²	40.9 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕:0/23 0%		8/200 m ²	0/32 0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	1 /200 m ²	1/1 100%				38	32%・43.7・33%	0.25・0.09(24.4)・0.00

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
イタヤカエデ	5	3,473	4	
オオバボダイジュ	4	788	2	
カツラ	1	788	1	
キタコブシ	2	725		
オヒョウ	1	640		
全体	32	8,183	23	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
サワシバ	1		1

全体	1	1
----	---	---

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	15	0.149	31.5	43.7	○
ジュウモンジシダ	7	0.051	10.5	39.9	
フッキソウ	15	0.022	10.0	18.1	
オシダ	7	0.017	5.1	22.1	
ムカゴイラクサ	14	0.003	2.6	10.4	
全体		0.247	55.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P04 は、元浦川上流の小さな沢沿いにある広葉樹林で、トドマツ人工林が隣接する。オオバボダイジュやイタヤカエデが優占する。林内の沢沿いにはシカ道や足跡が見られる。下枝がある立木はイタヤカエデやサワシバを中心に 23 本/200m² とやや少なく、樹皮剥ぎも含めて食痕は見られない。

稚樹はサワシバの 1 本のみと密度が低い。林床はミヤコザサが 30%強を占めるほか、シダ類が目立つ。可食種の現存量は 0.01 未満とほとんど見られず、ササを除くとフッキソウなどの忌避種が多い。枝の被食が確認されていないものの、林床に忌避種が多いことや、ササが密生しない林床で、稚樹の更新が期待される立地条件にあるもののほとんど稚樹が見られないことから、林床ではシカによる影響を強く受けていることが推測される。

日高 P05 の結果概要 地区名：三石川 1 3162 林班い小班 9月14日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	北	1	2	2007年 3.1	累積 1.7	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	71 /200 m ²	37.2 m ² /ha	35 /200 m ² 食痕:27/35 77%		30/200 m ²	1/66 2%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	19 /200 m ²	17/19 89%		26	54%・82.8・75%	0.54・0.08(25.4)・0.00		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ヤマモミジ	18	2,064	12	1
サワシバ	26	1,783	15	
イタヤカエデ	1	1,136		
アサダ	1	723		
トドマツ	3	677	1	
全体	71	7,437	37	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
アオダモ	12		11
サワシバ	7	1	6
トドマツ	2		
全体	21	1	17

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
クマイザサ	20	0.456	53.5	82.8	○
スゲsp.(A)	10	0.048	23.0	20.3	
スゲsp.(B)	7	0.016	8.0	18.7	
シラネワラビ	9	0.007	4.2	18.3	
オシダ	4	0.006	1.6	26.3	
全体		0.543	82.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P05 は、三石ダム上流部の林道沿いに位置する広葉樹林である。緩斜面でヤマモミジとサワシバが優占する。林内はシカ道が見られ食痕も目立つ。下枝がある立木は 35 本/200m² と比較的多く、その 77%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはヤマモミジの 1 本のみと少ない。

稚樹は 19 本で日高地域では比較的多く、食痕率は 89%と高い。林床はクマイザサが 50%以上を占めており、食痕率も 75%と高い。そのほかではスゲ類やシダ植物が目立つ。ササを除いた可食種の現存量は 0.01 未満と小さく、忌避種がその 20 倍以上を占める。2007 年の SPUE が 3.1 (レベル: S2) で、日高地域では低い場所であるが、稚樹や小径木の被食の影響が生じつつある状況と思われる。

日高 P06 の結果概要 地区名：三石川2 3166 林班ほ小班 9月1日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面中部	北西	1	2	2007年 3.1	累積 1.7	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	67 /200 m ²	21.2 m ² /ha	24 /200 m ² 食痕:0/24 0%		34/200 m ²	1/64 2%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	27 /200 m ²	13/27 48%					

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ケヤマハンノキ	3	946		
トドマツ	3	792		
ミズキ	8	733	3	
ホオノキ	3	289		
バッコヤナギ	2	259	1	
全体	67	4,240	24	1

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
アオダモ	9	3	6
ヤマモミジ	7	4	4
サウシバ	6	2	3
シナノキ	4	3	2
ミツデカエデ	2		
全体	29	12	16

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	14	0.375	49.3	75.9	○
スゲsp.(B)	13	0.037	16.1	19.9	
クサソテツ	7	0.018	4.3	42.3	
アオダモ	3	0.012	1.5	64.0	○
ヤマモミジ	5	0.012	2.1	33.4	○
全体		0.491	78.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P06 は、三石ダム下流部の林道沿いに位置する針広混交林である。沢沿いの緩斜面でケヤマハンノキやトドマツが多い。林内にはシカ道が見られる。下枝がある立木は 24 本/200m² でやや少なく、食痕は見られない。樹皮剥ぎも 1 本のみと少ない。

稚樹はアオダモやヤマモミジなど 29 本と日高地域では比較的多く、48%に食痕が見られる。林床はクマイザサが 50%弱を占め、ほかではスゲ類が目立つ。ササの食痕率は 79%と高い。可食種の現存量は 0.04 で忌避種の約半分である。枝の被食が確認されていないものの、ササや稚樹の被食率が高いことから、P05 と同様に、林床では被食による影響が生じつつある状況と思われる。

日高 P07 の結果概要 地区名：静内川 1 107 林班い 1 小班 9 月 15 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUJE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	南	1	2	2007年 4.9	累積 5.5	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	98 /200 m ²	36.8 m ² /ha	68 /200 m ² 食痕:51/68 75%		58/200 m ²	0/98 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	18 /200 m ²	18/18 100%		29	58%・28.8・80%	0.21・0.02(2.0)・0.01	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	10	2,853	8	
サワシバ	46	1,692	40	
オオバボダイジュ	5	1,230	1	
アカシデ	14	514	8	
アオダモ	8	474	3	
全体	98	7,362	68	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
サワシバ	5		5
ヤマモミジ	5	2	5
アオダモ	4		4
ミズナラ	3	3	3
アカシデ	2		2
全体	21	6	21

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.181	57.5	28.8	○
スゲsp.(A)	12	0.011	8.4	11.6	
カノツメソウ	11	0.003	0.9	15.4	○
ヒトリシズカ	3	0.003	1.1	19.3	
スゲsp.(B)	7	0.002	1.9	11.3	○
全体		0.209	67.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P07 は、静内ダム周辺の右岸側の林道沿いに位置する広葉樹林である。林道山側の急斜面でミズナラやサワシバが優占する。林内はシカ道が見られ食痕も目立つ。下枝がある立木は 68 本 /200m² と多く、その 75% に食痕が見られる。一方で樹皮剥ぎは見られない。

稚樹はサワシバやアオダモなど 21 本で、全てに食痕が見られる。林床はミヤコザサが 60% 弱をしめて優占しており、食痕率も 80% と高い。そのほかでは、スゲ類が目立つ。可食種の現存量は 0.01 で、忌避種はその 2 倍を占める。枝、稚樹、ササの食痕率がいずれも高く、シカの影響が強く見られる。

日高 P08 の結果概要 地区名：静内川 2 260 林班い 1 小班 9 月 15 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	北西	1	2	2007年 6.6	累積 6.6	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	75 /200 m ²	36.6 m ² /ha	28 /200 m ² 食痕:19/28 68%		28/200 m ²	4/70 6%(6%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	3 /200 m ²	3/3 100%			9	68%・49.4・65%	0.38・0.04(719.3)・0.00	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ホオノキ	9	1,588		
ミズナラ	5	1,406	3	
ウダイカンバ	5	1,376		
シナノキ	17	933	6	1
オオバボダイジュ	3	519		
全体	75	7,330	28	4

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
アオダモ	1		1
シナノキ	1		1
ミズナラ	1		1

全体	3	3
----	---	---

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.332	68.0	49.4	○
オシダ	2	0.042	6.5	63.5	
フッキソウ	3	0.000	0.3	14.0	
ワラビ	1	0.000	0.1	17.0	
カノツメソウ	2	0.000	0.1	9.0	
全体		0.375	73.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P08 は、静内ダム周辺の左岸側の林道沿いに位置する広葉樹林である。林道山側の緩斜面でホオノキやミズナラが優占する。林内はシカ道が見られ、食痕も目立つ。下枝がある立木は 28 本/200m²で、その 68%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは 6%に見られ、シナノキなどいずれも新規食痕だった。

稚樹はアオダモなど 3 本と密度が低く、全てで食痕が見られる。林床はミヤコザサが 70%弱をしめて優占しており、食痕率は 65%である。そのほかでは、オシダやフッキソウが目立つ。可食種の現存量はほとんどなく、忌避種が 0.04 を占める。枝、稚樹、ササの食痕率がいずれも高く、可食種がほとんどないなど、シカの影響が強く見られる。これは 2007 年の SPUE が 6.6 (レベル: S4) と高いこととも対応している。

日高 P09 の結果概要 地区名：シュンベツ 1 8 林班い 4 小班 9 月 16 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林 (ミズナラ)	斜面中部	北東	1	2	2007 年 8.8	累積 6.3	糞・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	62 /200 m ²	28.2 m ² /ha	38 /200 m ² 食痕: 27/38 71%		30 /200 m ²	0/62 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	5 /200 m ²	5/5 100%		30	48%・34.1・50%	0.19・0.02(5.1)・0.00	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総 BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
アカシデ	6	1,161	3	
ミズキ	3	847		
ミズナラ	3	746	3	
イタヤカエデ	4	726	1	
オオバボダイジュ	2	586	1	
全体	62	5,633	38	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
アオダモ	3		3
ミズキ	1		1
ヤマモミジ	1		1

全体	5	5
----	---	---

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
ミヤコザサ	20	0.171	47.8	34.1	○
スゲsp.(A)	10	0.009	7.4	10.9	
スゲsp.(B)	9	0.008	7.3	9.2	
オオバノヨツバムク	6	0.003	2.0	9.7	
カノツメソウ	11	0.002	0.9	12.3	○
全体		0.195	62.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P09 は、シュンベツ川上流の林道沿いに位置する広葉樹林である。斜面中部の緩斜面でアカシデやミズキなど多くの樹種からなる。林内はシカ道が多く、食痕も目立つ。下枝がある立木は 38 本/200m²で、その 71%に食痕が見られる。一方で樹皮剥ぎは見られない。

稚樹はアオダモなどの 5 本のみと密度は低く、全てに食痕が見られる。林床はミヤコザサが 50% 弱と優占しており、食痕率は 50%である。その他ではスゲ類が目立つ。可食種の現存量は 0.01 未満で忌避種がその 5 倍以上を占める。稚樹、ササの食痕率がいずれも高く、エゾシカの被食の影響が強く見られる。また、実生更新を阻害するほどササが密生していないため、稚樹密度が低い要因もシカによる被食の影響が強いと思われる。これらのことは SPUE が 8.8 (レベル: S4) と高いこととも対応している。

日高 P10 の結果概要 地区名：シュンベツ2 11 林班い2 小班 9月16日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	北西	1	2	2007年 8.8	累積 6.3	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	74 /200 m ²	40.5 m ² /ha	41 /200 m ² 食痕:38/41 93%			41 /200 m ²	0/74 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	4 /200 m ²	4/4 100%					25	79%・52.2・95%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	9	2,722	3	
オオバボダイジュ	2	1,653		
シナノキ	5	1,526		
ミズキ	1	740	1	
ハリギリ	3	557	1	
全体	74	8,108	41	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
サワシバ	2		2
アサダ	1		1
ミツデカエデ	1		1
ヤマグワ	1	1	1
全体	5	1	5

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.414	79.3	52.2	○
スゲsp.(B)	16	0.018	10.9	14.4	
ツルウメモドキ	4	0.012	1.0	36.5	
ヌスビトハギ	4	0.007	1.5	24.0	
フッキソウ	11	0.005	2.5	15.0	
全体		0.460	87.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P10 は、シュンベツ川上流の林道沿いで、P09 の約 2km 上流の広葉樹林である。斜面中部の緩斜面でミズナラやシナノキが多く見られる。林内はシカ道が見られ、食痕もよく目立つ。下枝がある立木は 41 本/200m²で、その 93%に食痕が見られる。一方で樹皮剥ぎは見られない。

稚樹はサワシバなどの 5 本のみと密度は低く、全てに食痕が見られる。林床はミヤコザサが約 80%と優占しており、食痕率は 95%である。その他ではスゲ類が目立つ。可食種の現存量は 0.02 で忌避種も同程度見られる。枝、稚樹、ササの食痕率がいずれも極めて高く、エゾシカの被食の影響が強く見られる。このことは SPUE が 8.8 (レベル：S4) と高いこととも対応している。

日高 P11 の結果概要 地区名：新冠川 1 1146 林班た小班 9月4日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面中部	北	1	2	2007年 4.8	累積 4.1	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	55 /200 m ²	32.0 m ² /ha	33 /200 m ² 食痕:3/33 9%		28/200 m ²	0/49 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	7 /200 m ²	6/7 86%				22	70%・52.3・90%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	3	1,270		
ダケカンバ	1	1,233	1	
シナノキ	3	954	1	
ケヤマハンノキ	2	728	2	
オオバボダイジュ	2	447		
全体	55	6,398	33	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
イタヤカエデ	3		2
ヤマモミジ	3		3
アオダモ	1		1
全体	7		6

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.372	70.3	52.3	○
オシダ	1	0.006	1.5	40.0	
コゴメウツギ	2	0.006	1.1	45.0	○
スゲsp.(B)	4	0.002	1.1	13.8	
フッキソウ	7	0.001	0.7	14.7	
全体		0.389	74.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P11 は、新冠川中流の林道沿いに位置する針広混交林である。緩斜面でトドマツやシナノキなど多くの種からなる。林内にはシカ道が見られる。下枝がある立木は 33 本/200m² で、その食痕率は 9%と低い。樹皮剥ぎは確認されていない。

稚樹はイタヤカエデやヤマモミジなど 7 本で、食痕率は 86%と高い。林床はミヤコザサが約 70%と優占しており、他の植物の被度は 4.3%と少ない。ササの食痕率は 90%と高い。可食種と忌避種の現存量ともに 0.01 程度で忌避種も同程度見られる。枝の被食が少ないものの、稚樹やササの食痕率が高いことから、林床ではシカによる影響を強く受けていると推測される。

日高 P12 の結果概要 地区名：新冠川2 1010 林班い1 小班 9月17日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	南西	1	2	2007年 6.7	累積 4.7	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	70 /200 m ²	19.3 m ² /ha	50 /200 m ² 食痕:39/50 78%			49/200 m ²	0/70 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	55 /200 m ²	53/55 96%					33	34%・50.1・92%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ケヤマハンノキ	3	2,224	3	
イタヤカエデ	35	390	27	
ミズキ	3	385	1	
アサダ	3	266	1	
ヤマモミジ	7	128	5	
全体	70	3,854	50	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
イタヤカエデ	27	6	27
ハシドイ	15	5	13
サワシバ	9		9
ヤマモミジ	5	2	5
アオダモ	1	1	1
全体	60	15	58

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	12	0.183	34.3	50.1	○
ヤマモミジ	4	0.021	2.5	41.8	○
イタヤカエデ	6	0.018	1.9	63.5	○
オシダ	2	0.012	1.8	48.0	
ハシドイ	5	0.012	3.6	27.0	○
全体		0.280	54.9		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P12 は、新冠川中流の林道沿いに位置する広葉樹林である。なだらかな斜面で本数密度が高く、小径木のイタヤカエデが多く見られる。林内にはシカ道が見られ、食痕も目立つ。下枝がある立木はイタヤカエデを中心に 50 本/200m² と多く、食痕率は 78% と高い。樹皮剥ぎは確認されていない。

稚樹はイタヤカエデやハシドイなど 55 本で高密度に見られ、食痕率は 96% と高い。林床はミヤコザサが約 34% を占め、その食痕率は 92% と高い。その他ではヤマモミジやイタヤカエデの本木が目立つ。可食種の現存量は 0.06 と忌避種の 0.04 よりも高い。枝、稚樹、ササの食痕率がいずれも高く、エゾシカの被食の影響が強く見られる。このことは SPUE が 6.7 (レベル: S4) と高いこととも対応している。

日高P13の結果概要 地区名：新冠川3 1013林班い1小班 9月17日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	南西	1	2	2007年 6.7	累積 4.7	シカ道・落角・声
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	53 /200 m ²	39.5 m ² /ha	33 /200 m ² 食痕:26/33 79%			23 /200 m ²	9/53 17%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	50 /200 m ²	49/50 98%			39	63%・34.2・60%	0.31・0.06(1.7)・0.03	

※稚樹は樹高30cm以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
サウシバ	14	3,779	9	
アオダモ	13	1,601	6	8
イタヤカエデ	8	994	4	
ホオノキ	4	501	3	
ヤマモミジ	3	481	3	
全体	53	7,905	33	9

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
アオダモ	32	3	32
ヤマモミジ	10	4	10
サウシバ	9	4	8
ハシドイ	5		5
トドマツ	3	1	
全体	60	12	56

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.223	62.5	34.2	○
オシダ	13	0.046	14.3	27.5	
アオダモ	12	0.008	1.3	19.9	○
カノツメソウ	19	0.007	4.9	13.7	○
ヤマモミジ	9	0.007	2.6	17.6	○
全体		0.312	81.8		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P13 は、新冠川上流の林道沿いに位置する広葉樹林である。緩斜面でサウシバやアオダモなどが優占する。林内にはシカ道や落角が見られるほか、調査中に声が確認されており、シカの利用率が高いことが推測される。下枝がある立木は 33 本/200m² で、その食痕率は 79% と高い。樹皮剥ぎされた樹種はほとんどがアオダモで、アオダモの半数以上が樹皮剥ぎされている。

稚樹はアオダモやヤマモミジなど 50 本と高密度に見られ、食痕率は 79% と高い。林床はミヤコザサが 60% 以上を占め、その食痕率は 60% と高い。他にはオシダ、カノツメソウや、ヤマモミジとアオダモの木本が目立つ。可食種の現存量は 0.03 で忌避種の約半分である。枝、稚樹、ササの食痕率がいずれも高く、エゾシカの被食の影響が強く見られる。これは SPUE が 6.7 (レベル: S4) と高いこととも対応している。

日高 P14 の結果概要 地区名：新冠川4 1019 林班い1 小班 9月4日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	南	1	2	2007年 5.3	累積 4.8	シカ道・骨・声
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	86 /200 m ²	47.1 m ² /ha	34 /200 m ² 食痕:2/34 6%		40/200 m ²	7/83 8%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	11 /200 m ²	7/11 64%		25	74%・61.9・95%	0.49・0.01(0.6)・0.01	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	総BA (cm ²)	下枝あり(本)	樹皮剥ぎ(本)
ミズナラ	15	3,354	6	
アサダ	10	1,414	5	
ヤマモミジ	6	949	4	
ウダイカンバ	2	890		
ハリギリ	4	734		
全体	86	9,428	34	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	No付き本数	食痕あり(本)
イヌエンジュ	5	1	1
サワシバ	3		3
トドマツ	2		
ヤマモミジ	2	1	2
アオダモ	1		1
全体	13	2	7

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
クマイザサ	20	0.472	73.8	61.9	○
イヌエンジュ	1	0.005	1.0	53.0	○
スゲsp.(A)	5	0.003	1.6	15.2	
ヤマモミジ	5	0.002	0.3	25.8	○
オシダ	3	0.002	1.0	24.3	
全体		0.489	76.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P14 は、新冠川上流の下新冠ダム周辺の林道沿いに位置する広葉樹林である。緩斜面でミズナラやアサダなどが優占する。林内にはシカ道や骨が見られるほか、調査中に声が確認されている。下枝がある立木は 34 本/200m² で、その食痕率は 6%と低い。樹皮剥ぎは、7 本 (8%) で新規食痕は見られなかった。

稚樹はイヌエンジュやサワシバなど 11 本と低密度で、食痕率は 64%と高い。林床はミヤコザサが約 70%以上をしめて優占しており、その食痕率は 95%と高い。他の植物の被度は 2.7%と少ない。可食種の現存量は 0.01 と小さいが、忌避種に比べると多い。枝の被食が少ないものの、稚樹やササの食痕率が高いことから、林床ではシカによる影響を強く受けていると推測される。

日高 P15 の結果概要 地区名：東川 2174 林班い 2 小班 8 月 31 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林 (ミズナラ)	斜面中部	北西	1	2	2007 年 3.2	累積 3.8	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	62 /200 m ²	46.4 m ² /ha	33 /200 m ² 食痕: 14/33 42%		25 /200 m ²	0/61 0% (0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	7 /200 m ²	5/7 71%				19	16%・69.0・13%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総 BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	4	5,508		
イタヤカエデ	14	1,295	4	
エゾヤマザクラ	2	603		
ダケカンバ	1	509		
サワシバ	13	455	13	
全体	62	9,289	33	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり (本)
キタコブシ	3		3
アオダモ	2		1
ニガキ	2		2
カバノキ sp.	1		1
ミズナラ	1		
全体	9		7

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
ミヤコザサ	5	0.111	15.5	69.0	○
オシダ	13	0.041	9.4	39.9	
スズタケ	3	0.001	0.3	43.7	
フッキソウ	9	0.001	0.7	16.0	
ムカゴイラクサ	3	0.001	0.5	12.3	
全体		0.157	25.7		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P15 は、東川地区西部の林道沿いに位置する広葉樹林である。尾根に近い緩斜面で、ミズナラやイタヤカエデ、サワシバが多く見られる。林内は明瞭なシカ道はないものの、スズタケの食痕が目立っている。下枝がある立木はアオダモを中心に 33 本/200m² で、その 42% に食痕が見られる。樹皮剥ぎは確認されていない。

稚樹はキタコブシやアオダモなど 7 本と低密度で、食痕率は 71% と高い。林床はミヤコザサとオシダが目立つが全体の被度は 25.7% と低い。スズタケの被度は 0.3% と低い、枯死した稈が多く見られることから、以前はスズタケが繁茂しておりシカの被食によって衰退したと考えられる。ササを除いた可食種の現存量は 0.01 未満とほとんど見られない。枝や稚樹、スズタケの被食状況からは、エゾシカの被食の影響が強く見られる。

日高 P16 の結果概要 地区名：厚別川 1 2074 林班れ小班 10月2日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		尾根	北	1	2	2007年 3.6	累積 3.2	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	70 /200 m ²	62.9 m ² /ha	32 /200 m ² 食痕: 8/32 25%		40 /200 m ²	6/70 9%(1%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	27 /200 m ²	4/27 15%			50	7%・32.0・0%	0.13・0.09(5.6)・0.02	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の ()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
オヒョウ	3	2,916		1
カツラ	2	2,418	1	
ハリギリ	1	1,605		
ミツデカエデ	11	1,474	4	
ベニイタヤ	1	1,387		
全体	70	12,586	32	6

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き本数	食痕あり(本)
ヤマモミジ	6	2	6
アオダモ	5		4
シウリザクラ	5	2	4
イタヤカエデ	3		3
キタコブシ	3		
全体	28	5	21

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
オシダ	15	0.074	14.6	43.5	
ミヤコザサ	8	0.025	6.8	32.0	
バラ科sp(低木)	5	0.006	1.1	50.0	
ジュウモンジシダ	5	0.006	2.0	22.4	
モミジガサ	11	0.004	1.2	18.4	
全体		0.132	32.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P16 は、厚別川下流域の林道沿いに位置する広葉樹林である。斜面下部が馬の放牧地に隣接した急斜面で、オヒョウやカツラなど湿性タイプの広葉樹が多く見られる。林内はシカ道が多く、食痕も目立つ。下枝がある立木はアオダモを中心に 32 本/200m² で、その 25%に食痕が見られる。樹皮剥ぎはオヒョウなど 6 本 (9%) に見られる。

稚樹はヤマモミジやアオダモなど 28 本で、食痕率は 25%であるが、古い食痕も含めると、ほとんどの稚樹に食痕がある。林床はオシダやミヤコザサが目立つが、全体の被度は 32%と低く、急峻な地形であることも要因になっていると思われる。ササを除いた可食種の現存量は 0.02 と小さく、忌避種がその 5 倍以上を占める。新規の食痕率は低いものの、エゾシカの被食の影響が累積しつつある状況と推測される。

日高P17の結果概要 地区名：厚別川2 2038林班り小班 9月18日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPU頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面中部	東	1	2	2007年 4.5	累積 3.2	シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	110 /200 m ²	36.3 m ² /ha	70 /200 m ² 食痕:69/70 99%		.87 /200 m ²	26/104 25%(25%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	38 /200 m ²	37/38 97%				43	21%・46.9・69%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
エゾマツ	2	3,062		
ハシドイ	31	1,110	23	2
シウリザクラ	3	808	1	
ホオノキ	4	625	1	
ハクウンボク	3	515	1	
全体	110	7,253	71	26

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
ハシドイ	28	9	27
アオダモ	10	7	10
トドマツ	9	1	
イタヤカエデ	6	2	6
アサダ	4	4	3
全体	66	25	54

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	16	0.112	20.5	46.9	○
スゲsp.(B)	18	0.095	37.3	24.2	○
オシダ	9	0.079	12.6	40.7	
フッキソウ	17	0.043	24.6	16.9	
トドマツ	5	0.012	1.6	24.0	
全体		0.368	79.3		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P17 は、厚別川上流域の林道沿いに位置する針広混交林である。小さな沢沿いの緩斜面で、針葉樹はエゾマツが見られ、広葉樹はハシドイが多く見られる。林内にはシカ道が見られ、食痕も目立つ。小径木の密度が高いため、下枝がある立木はハシドイを中心に 70 本/200m² と多く、そのほとんどに食痕が見られる。樹皮剥ぎの割合も 25% と他調査地に比べて高く、全て新規食痕である。

稚樹はハシドイやアオダモなど 38 本と密度が高く、食痕率は 97% と高い。林床はミヤコザサ、オシダ、スゲ類、フッキソウが目立つ。ミヤコザサの被度は 21% と高くないが、食痕率は 69% と高い。ササを除く可食種の現存量は 0.02 で忌避種がその 15 倍を占める。緩斜面で稚樹や下枝が多いなど、エゾシカが利用しやすい条件が整っており、今後さらに稚樹や小径木にエゾシカの被食による影響が及ぼすことが推測される。

日高 P18 の結果概要 地区名：厚別川3 2054 林班い5 小班 9月30日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林	尾根	西	1	2	2007年 4.5	累積 3.2	足跡・シカ道
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	58 /200 m ²	66.7 m ² /ha	22 /200 m ² 食痕:10/22 45%		22/200 m ²	4/49 8%(2%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	3 /200 m ²	0/3 0%		30	50%・45.0・85%	0.30・0.07(14.1)・0.01	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
ミズナラ	7	5,201	1	
アサダ	2	2,074		
ハルニレ	2	1,537		
エゾヤマザクラ	2	1,493		
イタヤカエデ	6	989	4	
全体	58	13,333	22	4

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
アオダモ	4	1	2
ヤマモミジ	2	1	2
サワシバ	1		
ハリギリ	1		
全体	8	2	4

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.226	50.0	45.0	○
ヨブスマソウ	5	0.040	2.5	133.0	
オシダ	9	0.026	6.0	35.4	○
フッキソウ	17	0.004	2.2	17.7	
コンロンソウ	14	0.002	1.1	18.3	○
全体		0.304	56.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P18 は、里平川上流域の林道沿いに位置する広葉樹林である。尾根沿いの斜面で、ミズナラなどが多く見られる。林内にはシカ道が見られる。下枝がある立木はイタヤカエデなど22本/200m²で、その45%に食痕が見られる。樹皮剥ぎの割合は8%で、樹下植栽されたトドマツに新しい角とぎの痕跡が見られる。

稚樹はアオダモなど3本のみと密度は低く、食痕は見られない。林床はミヤコザサが50%を占め、その食痕率は85%と高い。他にはオシダ、フッキソウ、ヨブスマソウなどの忌避植物が目立つ。ササを除いた可食種の現存量は0.01未満で、忌避種がその10倍以上を占める。下枝やササの食痕率の高さや、稚樹の低密度から、シカによる被食の影響を強く受けていると思われる。

日高 P19 の結果概要 地区名：門別 1 2007 林班い 1 小班 9 月 30 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	北西	1	2	2007年 5.5	累積 4.9	なし
毎木	本数密度	総BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	98 /200 m ²	45.1 m ² /ha	51 /200 m ² 食痕:1/51 2%		63/200 m ²	0/95 0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	36 /200 m ²	1/36 3%		17	51%・50.5・5%	0.34・0.04(1.3)・0.03		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
アサダ	5	3,047	1	
ダケカンバ	2	1,258		
サワシバ	45	1,102	33	
ホオノキ	2	919		
カツラ	3	840		
全体	98	9,016	51	

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き 本数	食痕 あり(本)
サワシバ	9	3	2
ハシドイ	8	2	1
ヤマモミジ	8		2
ツリバナ	5		1
イタヤカエデ	4		1
全体	39	8	9

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 有無
ミヤコザサ	20	0.264	50.5	50.5	○
オシダ	11	0.034	8.3	36.0	
サワシバ	3	0.028	2.6	88.0	○
ジュウモンジシダ	5	0.003	1.2	24.0	
ハシドイ	2	0.002	0.3	50.5	○
全体		0.337	58.5		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P19 は、門別川中流域の林道沿いに位置する広葉樹林である。斜面下部が採草地に隣接した急斜面で、サワシバが多く見られる。林縁周辺ではシカの足跡や食痕は目立つものの、林内にシカ道は見られない。下枝がある立木はサワシバを中心に 51 本/200m² で、食痕が見られたのは 2% と低い。樹皮剥ぎも確認されていない。

稚樹はヤマモミジやハシドイなど 36 本と密度が高く、食痕率は 3% と低い。林床はミヤコザサが 50% を占め、その食痕率は 5% と低い。他にはオシダなどが目立つ。ササを除いた可食種の現存量は 0.03 と、忌避種とほぼ同程度である。枝、稚樹、ササのいずれの食痕率も低く、ここではシカの利用が低い。近隣の調査地では、このように食痕が少ない場所はなく、シカの低利用の理由については不明である。

日高 P20 の結果概要 地区名：門別 2 2019 林班る小班 9月18日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面下部	北	1	2	2007年 5.5	累積 4.9	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	82 /200 m ²	54.2 m ² /ha	38 /200 m ² 食痕:20/38 53%		24/200 m ²	3/80 4%(4%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	8 /200 m ²	7/8 88%					35	56%・37.9・50%

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総 BA (cm ²)	下枝あり (本)	樹皮剥ぎ (本)
トドマツ	2	3,152		
イタヤカエデ	33	1,731	16	1
ミズナラ	2	1,426	2	
オオバボダイジュ	10	973	5	1
ハルニレ	1	848		
全体	82	10,840	38	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	No付き (本)	食痕あり(本)
ハシドイ	6		6
キタコブシ	2		1

全体	8	7
----	---	---

※No付き本数は、林床調査区でNoを付した稚樹の数

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕有無
ミヤコザサ	16	0.229	56.3	37.9	○
オシダ	11	0.074	17.0	39.6	
ムカゴイラクサ	18	0.011	6.8	15.4	
ヨブスマソウ	3	0.006	1.3	45.3	
モミジガサ	9	0.005	1.6	14.3	
全体		0.338	77.0		

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



調査区 P20 は、門別川支流三の沢の林道沿いに位置する針広混交林である。緩斜面でイタヤカエデやオオバボダイジュが、多く見られる。林内にはシカ道が多く、食痕も目立つ。下枝がある立木はイタヤカエデを中心に 38 本/200m²で、その 53%に食痕が見られる。樹皮剥ぎは 3 本で、全て新規食痕である。

稚樹はハシドイとキタコブシの 8 本と密度が低く、ほとんどで食痕が見られる。林床はミヤコザサが 50%を占め、その食痕率は 50%である。他にはオシダなどが目立つ。ササを除いた可食種の現存量は 0.01 未満でほとんどなく、忌避種の現存量は 0.11 を占める。枝、稚樹、ササのいずれの食痕率も高く、シカによる被食の影響を強く受けていると思われる。